

功 績 概 要 書

住 所 山形市東原町4丁目1-19
氏 名 小嶋 信一
生年月日 昭和17年1月10日（74歳）
現 職 オビサン株式会社 代表取締役会長

1 主な功績

創業明治31年のオビサン株式会社の代表者として、時代の変化に柔軟に対応しながら、取扱領域の拡大や積極的な県外進出を行い、同社を東北最大級の紙卸売業者へ成長させるとともに、物流の効率化をはじめ、ネットオフィスなどウェブ戦略の事業取込み等により、同社及びグループ企業の関連する産業の発展と再建支援を通して、本県産業の発展向上に大きく貢献した。

2 具体的功績

- (1) 県内同業者と物流や資本面で緩やかに連携を図ること等により、県外資本との競争に負けない業界の体制を整備することに尽力し、県内紙卸売業の安定成長と雇用の維持に貢献した。
- (2) 精英堂印刷株式会社（米沢市）の代表取締役会長として、長年同社の発展に寄与し、シールラベルコンテスト経済産業大臣賞受賞（2014年他通算5回受賞）、世界ラベルコンテスト最優秀賞受賞（2014年受賞）など、同社を世界に通用するパッケージ・ラベル印刷企業に育てあげた。
- (3) インテグラール株式会社を設立し、県内印刷業の大手である藤庄印刷株式会社の事業再生後の同社株式を地元企業として引き受け、平成28年には同社の代表取締役社長（会長兼務）に就任するなど、同社の業績の安定と成長を牽引するとともに、地域の雇用確保を通して地域経済へ多大な貢献を行った。

※年齢は平成28年11月3日現在

功 績 概 要 書

住 所 長井市あら町7番23号
氏 名 平 忠一
生年月日 昭和16年11月20日（74歳）
現 職 長井商工会議所 常議員
株式会社平野屋 代表取締役会長

1 主な功績

昭和60年から現在に至るまでの長きにわたり、長井商工会議所常議員として同会議所の運営及び地域経済の発展に尽力した。また、同会議所会頭の諮問機関に数多く所属し組織の基盤強化に寄与した。加えて、同会議所と連携し、地場特産品の開発や販路拡大を行う長井地場食品推進協議会（現 長井地場食品協同組合）の設立に尽力するとともに、理事長として地場産品のPR及び販路拡大等に努めたほか、山形県こんにゃく協同組合理事長や山形県食品衛生協会副会長を務め業界の発展に貢献した。

2 具体的功績

- （1）昭和60年に43歳の若さで長井商工会議所常議員に就任し、現在に至るまでの長きにわたり、長井商工会議所の事業活動に積極的に参加するとともに、財政基盤強化や事務局機構の改革などにおいて中心的な役割を果たし、同会議所の運営体制の強化や地域経済の発展に貢献している。
- （2）長井商工会議所と連携し地場特産品を扱っている事業所に呼びかけ「長井地場食品推進協議会」の設立に尽力するとともに、理事長時代には、地場特産品のPR及び販路拡大、新商品の開発などを行うとともに、首都圏における物産展への出展などを実現し、全国に向けた地場特産品の情報発信に貢献した。
- （3）山形県食品衛生協会副会長、山形県こんにゃく協同組合理事長など、数多くの県内商工団体の要職を歴任し、長年にわたり本県産業の発展に貢献した。また、山形県こんにゃく協同組合理事長時代には、「全こん連東北・北海道地区協議会山形大会」を2回開催し、全国にこんにゃくの消費拡大と業界の一層の結束を呼び掛けた。

功 績 概 要 書

所在地 山形市十文字 1318 番 5 号
団体名 株式会社 山形電機製作所
代表者 代表取締役社長 石澤 真里子 (69 歳)

1 主な功績

配電盤・分電盤・自動盤等の製造メーカーとして、蓄積された独自のノウハウと高い技術力を基に事業を拡大し、中央省庁、地方自治体、大手民間企業などへの幅広い納入実績を有するとともに、最新鋭のシステムの活用により、徹底した品質管理・効率化・省力化を進めて、東日本全域を営業範囲とするなど本業界の発展に寄与した。

2 具体的功績

- (1) 最新鋭の「CIM システム (CAD+CAM : 加工工法や形状が複雑な物でも、PC 上で数値データを作成し、工作機械にその数値データを転送するシステム) を活用し、独自の生産ライン・システムを開発・構築して、顧客ニーズに柔軟かつスピーディーに対応する体制を確立した。また、常に最新型の設備 (3次元レーザー加工機等) を導入すること等により、高度化・多様化する顧客ニーズに対応するとともに、品質管理体制の強化も図っている。
- (2) 自動盤製造は機械化が困難であると言われており、同業他社では、外注で対応するケースが多いが、同社では、自動盤製造分野においても、設計から生産までの一貫生産体制を構築した。これは、長年、同社が精度を高めるための技術力向上に取り組んできた成果である。また、営業範囲は、東日本全域に及んでおり、本県の技術力の高さを県外に発信している。
- (3) 積極的に環境にやさしい「ものづくり」に取り組んでおり、ISO14001 認定を取得するとともに、塗装工程における技術・内容の見直しを行い、環境負荷軽減に繋がる表面処理技術を確立したことにより、産業廃棄物の大幅な低減及び生産性の向上を実現している。

功 績 概 要 書

住 所 米沢市林泉寺2丁目2番64号
氏 名 大場 好弘
生年月日 昭和28年7月3日(63歳)
現 職 国立大学法人 山形大学 理事

1 主な功績

同氏は専門とする有機材料の合成の分野において、強力なリーダーシップを発揮し、山形県と山形大学の共同事業を通して、山形県を有機ELの拠点から有機エレクトロニクス・蓄電デバイスの拠点へ発展させた。また、県内企業との連携を促進し、山形県を有機材料システムの国際的産業クラスターの拠点へと成長と発展させ、国内のみならず国際的に高い評価を受け、山形県の科学技術の振興と地域活性化に多大な功績を上げた。また、自身の専門領域において、長年にわたり県内企業との共同研究を推進し、県内企業の活性化にも大きく貢献している。

2 具体的功績

- (1) 山形県と山形大学の連携で、JST 地域卓越戦略的結集プログラム・文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム・経済産業省産学コンソーシアム事業・文部科学省COIプログラム・文科省COC及びCOCプラスプログラム等の採択に導き、山形県有機エレクトロニクス産業集積会議をリードする役割を果たすとともに、各事業において大きな実績を上げ、高い評価を得ている。
- (2) 時任静土卓越研究教授、吉武秀哉教授やスーパーイノベーター等、10年間で約100名の有機材料システム研究推進分野において活躍する研究者を戦略的に招聘し、県内企業をはじめ国内外と連携し、基礎研究から事業化推進まで可能とする体制を築いた。また、有機材料システム研究関連の7施設を整備し、様々な試作品の開発や500名にのぼる研究体制を構築し、県外からの企業誘致や県内企業に連携波及効果を及ぼした。
- (3) 基礎研究から事業化推進までの国際連携を積極的に展開し、日独連携においては、連携先のドイツ・ザクセン州より本連携が日本国内で一番活発な地域間連携であるとして高く評価され、山形県が国内及び世界をリードする傑出した地域として高い評価を得ることに貢献した。また、県内企業と長年共同研究を推進しており、印刷型の有機EL素子、有機薄膜太陽電池の研究で「発電する窓」の開発をリードし、県内企業の活性化に大きく貢献している。

※年齢は平成28年11月3日現在